

三原の光を観よう、魅せよう。 瀬戸内三原築城450年事業

三原繁栄の礎いしづえ三原城

永祿10年(1567年)、小早川隆景は新たな時代の到来を見越し、浮城と呼ばれた三原城を築いて拠点を移し、三原の繁栄の礎としました。以来、三原のまちはさまざまな人々によって守られ、現代まで伝えられてきました。そして、平成29年(2017)年、三原城は築城から450年の節目を迎えます。

ふるさと三原を 次の世代へ

平成29年に向け、今年度から「瀬戸内三原 築城450年事業」を本格的にスタートします。事業の目的は、少子高齢化が進む中、「ふるさと三原」を次の世代へと伝えていくため、三原を「観光のまち」にしておくことです。観光のまちとは、主要産業で

ある「ものづくり」と並んで、観光が市を支える産業の柱の一つとなること、市民が三原の「光」(文化・歴史的な財産)を「観」ることで、三原の魅力を理解することの両方を意味しています。

市民の皆さんと

三原の魅力を再発見

具体的には、行政と経済・観光団体などで設立した「瀬戸内三原 築城450年事業推進協議会」を中心に、観光誘客につながる事業を進めるとともに、市民の皆さんと力を合わせ、ふるさと三原の魅力を知る、好きになる取り組みを展開していきます。

広報みはら最終ページでは、次号以降、市の歴史のシンボルでもある三原城を中心に、市民の皆さんと一緒に歴史や文化を見つめ直し、時が磨いた宝を再発見していきます。

▲「妙正寺登覧画図」より



瀬戸内三原
築城450年事業

瀬戸内三原 築城450年事業のロゴマーク

浮城(うきしろ)と呼ばれた三原城の石垣と瀬戸の海に浮かぶ多島美がモチーフ。中央の白線は、「白波」と「新しい風」をイメージし、上下2つのまとまりで「市民協働」を意味しています。

事業のシンボルの1つである三原城址には、隠し文字の「三原城」をあしらひ、今なお残る歴史の重みと人々のつながりを表現しました。

三原市の人口(2月28日現在)

世帯数	43,844	世帯 (+103)
人口	98,620	人 (-662)
男	47,134	人 (-301)
女	51,486	人 (-361)

※外国人住民を含む。
※()内は前年同月との比較。

税などの納期(普通徴収)

○固定資産税・都市計画税(第1期)
納期限 4月30日(木)
夜間収納窓口(19時まで)
2日(木)・9日(木)・16日(木)・23日(木)・30日(木)

航空機の騒音測定結果(2月分) (Lden)

▶正広局(本郷町善入寺正広)=51.5 ▶本郷局(本郷町船木川西上)=53.1

あ・と・が・き
今 年度はこれからの10年間のまちづくりを定めた長期総合計画の初年度です。予算特集も計画の新たな柱で構成しています。▼先月22日、新三原市となって10周年を迎えました。市では、合併10周年を記念して今月29日に、芸術文化センターポポロで式典を開催します。また、郷土芸能が披露されるほか、待ちに待った公式マスコットキャラクターの発表もあります(8ページ掲載)▼春は新生活スタートの季節。緊張や不安もありますが、私も元気にスタートを切りたいもの。(A)